

株式会社 LIBO LIBO らぼ かわさきにし園
【当事業所における支援プログラム】

〈基本情報〉

① 事業所名 LIBO らぼかわさきにし園

② 作成年月日 令和6年10月1日

③ 法人理念

A) すべての子どもたちの成功を目指す（利用者第一主義）

B) 科学的根拠に基づいた質の高い療育（科学第一主義）

C) 職員の専門性の向上と働きやすさの実現

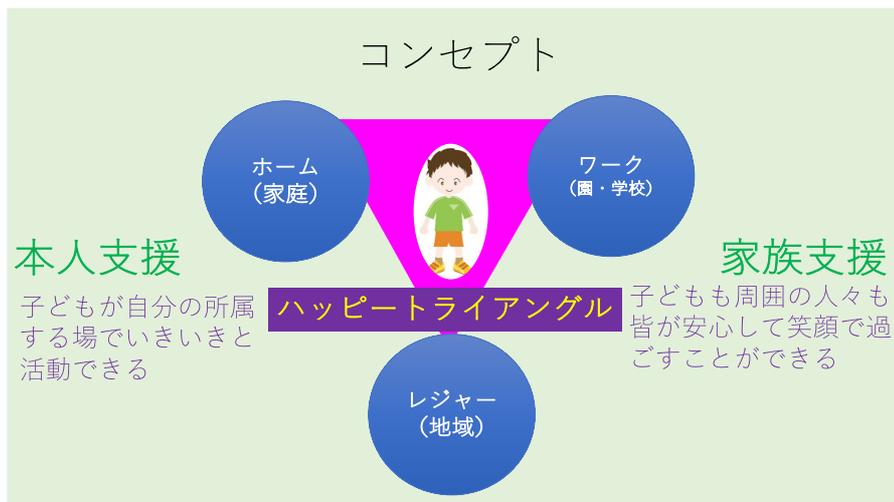
D) 持続可能な障害福祉サービスの提供

④ 支援方針

発達障害（の疑い）を持つ方やご家族が、現在から将来に渡り、より安心して幸せに暮らすことができるように、一緒に考え支える存在になることをめざす

➤ ご本人に対して 療育メニューの開発、教材の開発、実践、検証など

➤ 家族、関係者に対して 人材育成、相談支援、家庭支援、連携、啓発活動など



⑤ 営業時間

月曜日から土曜日、祝日

(12月30日から翌年1月3日までを除く)

月曜日から土曜日、祝日 10:00～18:30

⑥ 送迎実施の有無 無し

〈支援内容〉

⑦ 本人支援の内容と5領域の関連性

お子様一人ひとりのアセスメントに基づき、発達段階やニーズに合わせた個別プログラムを作成し、小集団療育や個別療育を実施（以下の5領域の支援内容を含む）
保護者に療育を見ていただき支援提供や意見交換をしながら理解や支援を共有

発達支援の5領域(児童発達支援ガイドライン)

領域	ねらい	支援内容	計画への反映例
ア) 健康・生活	健康状態の維持・改善 生活のリズムや生活習慣の形成 基本的生活スキルの獲得	健康状態のチェック、観察 睡眠、食事、排泄等、基本的な生活リズムを整える支援 咀嚼、嚥下、姿勢保持、自具具等に関する支援 病気の予防、安全への配慮 日常生活や社会生活を営めるように、身体的、精神的、社会的訓練 身の回りの清潔、食事、衣服の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能の習得 構造化による生活環境の整備 時間や空間を本人にわかりやすく構造化する	心身の状態をチェックする、自己認知支援の課題 基本的生活習慣に関する課題 姿勢保持、自具具の工夫 本人にわかりやすい構造化の提案(物理的構造化、スケジュール、ワークシステム、視覚的情報提供、教材の工夫など) など
イ) 運動・感覚	姿勢と運動・動作の向上 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 保有する感覚の総合的な活用	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善および習得 関節の拘縮や変形の予防 筋力の維持・強化 移動能力向上のための支援 保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるような遊びの支援 感覚の偏りに対する環境調整等の支援	日常生活動作に関する課題 プレイルームでの運動的課題 感覚・感覚遊び(ジェル系、セラピーバテ、粘土、砂、絵の具、スライム、トランプリン、バランスボール、センソリーグッズなど) 追視や注視に関する課題 手指の巧緻性に関する課題 身体の動きに関する課題 など
ウ) 認知・行動	認知の発達と行動の獲得 空間・時間、数等の概念形成の習得 対象や外部起案今日の適切な認知と適切な行動の習得	視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援 環境から情報を取得し、情報を選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達への支援 物の機能や属性、形、色、音などが変化する様子、空間、時間等の概念の形成を図ることによって、認知や行動の手がかりとして活用できるための支援 数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援 認知の特性や偏りを踏まえ、情報を適切に処理できるための支援 行動障害の予防、適切行動への対応の支援	前教科的課題(基礎基本=土台となる力/教わる・学ぶなどの姿勢、見る・触れる・嗅ぐなどの感覚的体験、聞く・話す・数概念などの生活上での体験、アクティブラーニング) ・考える・教科的課題(国語・算数・理科・社会・音楽・図が工作・家庭・体育・職業・外国語等) など
エ) 言語・コミュニケーション	言語の形成と活用 言語の受容および表出 コミュニケーションの基礎的能力の向上 コミュニケーション手段の選択と活用	具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける 体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援 話し言葉、各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えるなど、言語を受容し表出する支援	自発(表出)コミュニケーションの課題 受容(理解)コミュニケーションの課題 【コミュニケーションの形態の練習】 発声・発語・身振り・サイン・直接行動・視覚情報(実物・半具体物・トビー・絵・写真・文字等)・PECSなど 【コミュニケーションの機能の練習】 要求・拒否・叙述・儀式的言葉・挨拶・感情表現・情報提供・情報請求など 【コミュニケーションの文脈の練習】 親・担当指導員・担当以外の指導員・利用者間 など
オ) 人間関係・社会性	他者とのかわり 自己の理解と行動の調整 仲間づくりと集団への参加	人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援 遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援 一人遊びから並行遊び、大人が介入して遊ぶ連合的な遊び、協働遊び(役割分担やルールなど)を通して徐々に社会性の発達を支援 大人を介在して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解する支援 気持ちや情動の調整ができるようになる支援 集団参加のための手順やルールの理解、遊びや集団活動に参加するための支援 など	信頼関係の構築 模倣 遊びの発展 自己理解 気持ちや情動の調整 集団遊び 集団活動 ルールの理解 集団活動の手順の理解 など

⑧ 家族支援の内容

支援場面の観察や参加の機会提供、本人・きょうだい児についての相談援助等、随時実施

⑨ 移行支援の内容

地域社会への参加の充実、移行に向けた準備支援、移行先との調整等、随時実施

⑩ 地域支援・地域連携の内容

所属機関／支援者の参観受入及び訪問参観、情報交換や支援会議での連携等、随時実施

⑪ 職員の質の向上に資する取組

公益社団法人子どもの発達科学研究所、こころの発達研究所等の協力のもと、

以下の項目について年間研修計画を立て、全職員で研修後、研修報告書を提出し、保管

- 虐待防止研修
 - 身体拘束等適正化研修
 - 感染症対策研修／感染症対策訓練(感染症BCP・安全対策)
 - 防災BCP研修／避難訓練
 - 職員スキルアップ研修
 - 制度研修
 - ハラスメント(人権)研修
 - 管理者研修
 - 新入社員研修
 - 専門職研修
- 等

⑫ 主な行事等 季節ごとの小集団活動、運動、リズム、年長児クラス